



皇后陛下 御歌

新しきほまひとなれる吹上の
窓から望む大樹のみどり

季刊誌「皇室」94号（日本文化興隆財団企画・扶桑社刊）から転載

歌会始お題「窓」

目次

歌会始	1
栃木県神社庁長挨拶	2
栃木県神社庁教化委員長挨拶	3
栃木県神社庁役員紹介	4
栃木県神社庁教化委員会役員紹介	5
特別寄稿 参議院議員 有村治子	6
受彰者紹介	8
御大典記念事業	16
神宮式年遷宮	18
お神札の祀り方	21
厄年早見表・戌の日の早見表	23
栃木県特産物の紹介 〜とちぎのお米〜	24
編集後記	25

栃木県神社庁長 ごあいさつ



宇都宮二荒山神社
宮司 阿部 徳

謹んでご挨拶申し上げます。

この四月から黒川前庁長の後を引き継ぎました宇都宮二荒山神社宮司の阿部徳と申します。どうぞ宜しく御支援御指導の程願ひ上げます。

本当に 困りましたネ！ 中国武漢発の新型コロナウイルス感染症が世界的に広がり日本でも一昨年から都市から地方へと拡大した。緊急事態宣言・万延防止対策が発令され三密を避け不要不急の外出禁止などが強いられた。ワクチン接種で一時減退するも、再び拡大が繰り返される。この七月には第七波となり感染数の更新を続ける何とも遣り切れない思いである。

今回のコロナ感染は過去の疾病と比べられない未曾有のもので社会全体に大きな影響を及ぼしました。殊に我が神社のまつりや行事は中止または縮小軽減を余儀無くされました。それでも神社総代氏子の皆様の赤誠で新しい工夫と

試みによつて祭祀の厳守ご神徳高揚が図られてますこと有難く敬意と感謝申し上げる次第であります。

さて、本年は神宮大麻全国頒布百五拾周年を迎えます。神宮奉賛として一層の大麻頒布更に次期遷宮（令和十五年）の啓発に努めたいと思います。しかしながら、ご承知の通り大麻頒布数は年々減体して、昨年は過去最少に近い十五万体制の厳しい大変残念な結果になりました。今年神社本庁の新たな神宮大麻頒布向上計画の最終年に当り、指定三支部（下都賀・安佐・足利）を中心に全県内挙げて増頒布推進運動に鋭意進めてまいりますので皆々様のご支援ご協力を切に御願ひ申し上げます。

現下、コロナ禍に加えロシアの一方的ウクライナ侵攻や安倍元総理銃撃事件など誠に憂慮に堪えない多難な時だからこそ、清々しい社の聖域に足を踏み入れて、神々を詣でて無限のご神威を全身にいただき「元氣」になる。各々の家の神棚に神様をお迎えし、家族みんなが「元氣」になる。本紙が届く頃には再びコロナ感染が減退し終息に向かっていることを心より願ひて居ります。皆々様のご健勝ご繁栄をご祈念申し上げます。

（去る七月選挙遊説先で尊い命を落された安倍晋三元総理に衷心より哀悼の意を表します。）

栃木県神社庁教化委員長 ぐあいさつ



日光二荒山神社

禰 宜 香 取 正 義

この度、栃木県神社庁教化委員会役員改選にあたり、本年五月に開催されました臨時総会において、荒井和宏前委員長の後任として委員長に選任されました。副委員長には塩竈神社（矢板市）宮司の伊藤史展氏と瀧尾神社（日光市）宮司の田中教文氏、総務部門長に八雲神社（茂木町）宮司の小堀真洋氏、調査研究部門長に日光二荒山神社（日光市）権禰宜の町井康祐氏、教化育成部門長に愛宕神社（那須烏山市）宮司の滝口貴史氏、編集部門長に津島神社（高根沢町）禰宜の岩松史恵氏が選任されました。教化委員総勢四十七名の皆と共に更なる発展的な実践活動に務めて参りますので、今後ともご指導ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

昭和二十三年八月に栃木県神社庁教化部が発足し、昭和三十一年九月に教化部を発展的に解消して新たに栃木県神社庁教化委員会が発足、昭和四十一年九月に教化だより「下野の杜」が発刊されました。教化部発足から七十四年、教化委員会発足から六十六年、下野の杜発刊から五十六年の長きにわたり、多くの先輩方が教化活動を実践してこられましたことに心より敬意を表します。これからも教化委員一人一人が自覚をもちまして、しっかりと教化活動にお一層励んで参ります。

さて、未だ新型コロナウイルス感染症収束の兆しが見えず、全国的にも感染者数は増加と減少の波が続いており、まだまだ社会的影

響は非常に大きな状況です。新型コロナウイルスの感染拡散という未曾有の国難を経て、日本の手洗いという生活様式は、新型コロナウイルスの感染防止において大変有効であることが改めて認識され、第十代崇神天皇の時代において神社に手水舎を作り、手を洗い、身を清めることを推奨したという記録がある様に、二千年以上の時を超えて今もお続く手洗いという生活慣習は、日本の誇るべき生活文化であることを改めて実感しました。これまで二年を超えるコロナ禍のなかで、神社界でもあたりまえの光景が一変してご祭礼・神賑行事等も規模縮小や中止となり氏子の方々との深い繋がりも希薄になりがちで、国内情勢はもとより世界的な情勢も混沌としております。伝統文化を守り伝える為にも、困難を乗り越え神職として祈りを重ね変化に対応した活動が必要です。

本年は、神宮大麻全国頒布百五十周年記念の年であります。

明治天皇の思召しで、国民が日々天照大御神さまをご拝礼する「しるし」として明治五年四月一日に誕生し、今年百五十年を迎えました。神宮大麻には皇室のご繁栄、日本全体の発展と国民の幸福の祈りが込められ、全ての家庭ひとしくこれをお祀りして感謝を捧げる為に頒布されております。国民が心をひとつに神宮大麻を通して神の恵みと祖先の恩とに感謝の誠を捧げることによって、我が国の美しい国柄と崇高な国民道徳が発展していきます。日本人の暮らしの中に生き続けている神棚まつりという伝統文化を、これからも日本人の総氏神さまと称される伊勢の神宮と地域の守り神である氏神さまの奉斎を通じて、後世にも脈々と守り伝えていく教化の実践が大切です。

結びに神々の恵みに感謝し、栃木県内神職、神社総代様をはじめ氏子崇敬者の方々のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。ありがとうございます。感謝いたします。

栃木県神社庁役員紹介

栃木県神社庁は、天照皇大神を主神として天神地祇八百万神を奉斎する。神社神道を宣布し、祭祀を執行し、斯の道を信奉する者を教化育成する事を目的とし、併せて県内に所在する神社の興隆を図り、神職のために必要な諸方策を実施し、その他神社本庁の目的を達成するための管理・業務・事務を行うところである。

本神社庁には責任役員十五人を置き、そのうち一人を代表役員とする。代表役員を庁長といい、その他の責任役員を副庁長又は理事という。理事は支部長を兼ね、管内に左記の支部を設け、支部長一人、副支部長一人又は二人を置く。

この度栃木県神社庁役員改選が行われ、選出されました役員の皆様を御紹介致します。

栃木県神社庁長

宇都宮二荒山神社 宮司 阿部 慊
(宇都宮市鎮座)

副庁長

日光二荒山神社 宮司 中麿輝美
(日光市鎮座)

副庁長

栃木県護國神社 宮司 稲 寿
(宇都宮市鎮座)

理事

唐澤山神社 宮司 佐野正行
(佐野市鎮座)

理事

古峯神社 宮司 石原敬士
(鹿沼市鎮座)

理事

大前神社 宮司 柳田耕太
(真岡市鎮座)

理事並びに宇河支部長

八幡宮 宮司 小島教敬
(下野市鎮座)

理事並びに芳賀支部長

大前恵比寿神社 宮司 加藤直人
(真岡市鎮座)

理事並びに塩谷支部長

安住神社 宮司 荒井清勝
(塩谷郡高根沢町鎮座)

理事並びに南那須支部長

示現神社 宮司 和地秀美
(那須郡那珂川町鎮座)

理事並びに北那須支部長

乃木神社 宮司 渡 健二
(那須塩原市鎮座)

理事並びに上都賀支部長

岩崎神社 宮司 田邊一丸
(日光市鎮座)

理事並びに下都賀支部長

星宮神社 宮司 小林 靖
(下野市鎮座)

理事並びに安佐支部長

宇都宮神社 宮司 影山幹男
(佐野市鎮座)

理事並びに足利支部長

神明神社 宮司 尾花 章
(足利市鎮座)

各支部案内図



栃木県神社庁教化委員会役員紹介

栃木県神社庁教化委員会とは、神社庁の教化方針に従って神社神道の教化宣布及び斯界に関する講明啓発を活発に行い、斯界の昂揚発展に資することを目的とする。

本委員会は、支部・別表神社より推薦を受け、神社庁長より委嘱された教化委員を以て構成し、総務部門・調査研究部門・教化育成部門・編集部門の四部門を設け、事業を行う。

(栃木県神社庁教化委員会規程より抜粋)

この度栃木県神社庁教化委員の改選が行われ、選出されました役員の皆様を御紹介致します。

教化委員長

日光二荒山神社 禰宜 香取正義

(日光市鎮座)

副委員長

塩竈神社 宮司 伊藤史展

(矢板市鎮座)

副委員長

瀧尾神社 宮司 田中教文

(日光市鎮座)

総務部門

広報・宣伝・研修・諸団体との交流等に関する事業を行う。

◎部門長

八雲神社 宮司 小堀真洋

(芳賀郡茂木町鎮座)

◎副部門長

高麗神社 禰宜 福田光弘

(宇都宮市鎮座)

◎副部門長

今宮神社 禰宜 福田財大

(鹿沼市鎮座)

調査研究部門

敬神思想・祭典儀式・民俗芸能等に関する事業を行う。

◎部門長

日光二荒山神社 権禰宜 町井康祐

(日光市鎮座)

◎副部門長

宇都宮二荒山神社 権禰宜 金子宗人

(宇都宮市鎮座)

◎副部門長

賀蘇山神社 禰宜 横瀬勝宣

(鹿沼市鎮座)

教化育成部門

氏子、青少年等への教化活動の援助・協力に関する事業を行う。

◎部門長

愛宕神社 宮司 滝口貴史

(那須烏山市鎮座)

◎副部門長

大前神社 禰宜 柳田耕史

(真岡市鎮座)

◎副部門長

日光二荒山神社 権禰宜 和氣洋誠

(日光市鎮座)

編集部門

教化資料の編集刊行に関する事業を行う。

◎部門長

津島神社 禰宜 岩松史恵

(塩谷郡高根沢町鎮座)

◎副部門長

賀茂別雷神社 禰宜 毛利晴喜

(佐野市鎮座)

教化委員会基本方針

一、皇室尊崇、神宮崇敬の念の涵養と、国家意識を喚起するための活動推進に努める。

一、祭祀の厳修と振興を図り、祭祀行事を通じて地域社会の活性化に努める。

一、家庭祭祀・年中行事の振興を図り、文化・伝統の継承に努める。

一、神道の精神に基づき、青少年育成・福祉・環境保全等、地域社会への貢献に努める。

一、教化組織相互の連携による教化活動の展開に努める。

本年九月二十二日に開催された「栃木県神社関係者大会」は、当初県内の神職・総代・氏子各位の皆様にご参列いただき盛大に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染者の急激な増加や、ご参列いただく皆様方の健康と安全を第一に考慮した結果、規模を縮小しての開催となりました。

当日ご臨席を賜るご予定でありました、参議院議員 有村治子先生より、大会において皆様方へお伝えしたかった思いを、ご寄稿いただきました。

「栃木県神社庁さまの秀逸さ」



参議院議員 比例（全国）区選出
神道政治連盟国会議員懇談会 副幹事長

有村治子

鎮守の杜を大切にされ、日本の心をお守り下さっています栃木県の神社界の同志の皆さま、こんにちは！阿部懋庁長さま、柳田耕太神政連本部長さまはじめ、同志の皆様にはいつも温かい友情や御支援を賜っており、本当に有難うございます。

今年は「日中国交正常化五十年」の節目にあたりますが、中国共産党の横暴な拡張覇権主義に対し、現在どれだけの日本国民がこの節目を祝したいと考えておられるでしょうか。

私がかねて、日本としては「日中国交五十年」より、日本国民の悲願であった沖縄が祖国復帰を遂げ、全国四十七都道府県で主権（統

治権）を回復した日から丁度五十年を数える今年五月十五日の「同胞の絆」こそ、大事にすべき日本の歴史だと信じ、この二年間活動してきました。

最初はなかなか賛同者を得られず、ほぼ孤軍奮闘状態だった「沖縄復帰五十年」の歴史的節目も、粘り強く国会質問を繰り返し、自民党に訴え、総理や担当大臣に交渉し、沖縄県議会や民間団体とも連携する中で徐々に賛同者が増え、遂に天皇皇后両陛下がオンラインでご臨席遊ばされる中、日本政府が沖縄県と手を携えられ、復帰五十年の式典を沖縄と東京の二会場で厳かに挙行頂くことができました。

沖縄が辿った歴史に真摯に向き合い、沖縄の真の自律的發展を日本全域で応援する機運を高めている背景には、沖縄の世論分断を狙う外国勢力の存在を確認し、警戒している事情があります。

先の大戦で熾烈な地上戦となった沖縄戦では、「最期まで沖縄県民の命を守るために奔走し県民に寄り添った」と島田徹知事（兵庫県出身）および荒井退造沖縄県警察部長





（栃木県出身）の人道主義が記憶されており、世代を超えて、大切に語り継がれています。この夏にはお二人を主人公にした映画「島守の塔」が公開されました。

荒井退造氏が宇都宮のご出身であられたご縁もあり、栃木県護国神社の稲寿宮司さまを中心にして、栃木県神社庁有志の

皆さまが沖縄慰霊祭を重ねていらつしやることを教えて頂きました。私自身、「沖縄復帰五十年」に心を込めて向き合い、【沖縄関連事業を行うことのハードルがいかに高いか】を痛感しているからこそ、戦後七十七年経つ現在も、沖縄慰霊祭を続けていらつしやる栃木県神社界皆さまのご努力の尊さが身に染みて感じられ、心からの敬意と共感の想いを強めます。

このたび栃木県神社庁さまから『令和御大典 大嘗祭悠紀地方栃木県』の立派な表装の御本を頂戴致しました。

今上陛下の御即位に向けて、東日本を代表して県内各地で厳肅に神事を斎行され、国家安泰と皇室の弥栄、五穀豊穡を祈り重ねて、「とちぎの星」を献納されたご尽力の一端を辿ることができ、自ずから頭が下がりました。見事な記録に留めて頂いた編纂事業自体にも、深甚なる敬意を寄せ、後世の確かな道標になるものと確信致します。



誇りある栃木県神社界の皆さまに、心通うご縁を賜っております事が嬉しく、親しみと感謝の想いを強めます。どうぞこれからも温かいご指導・ご交誼を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

経歴

昭和四十五年生。平成十三年、参議院選挙 比例代表（全国区）にて神道政治連盟からご推薦を頂き初当選。現在四期目。

■安倍内閣にて初代女性活躍担当大臣、国務大臣（少子化対策・行政改革等）、■参議院自民党政策審議会長、■裁判官弾劾裁判所裁判長、■自民党広報本部長、■参議院自民党副会長等を歴任。「しっかりとした国家観と、地に足のついた生活観を持つて課題解決を図る」ことを心がけ、全国各地で対話が続ける。「神道の精神を国政に、日本の心を政策に」という想いで、命の重み・家族と地域の絆・国家の尊厳を守る活動をし、歴史の評価に耐えうる政治を志す。

受彰者紹介

(敬称略)

令和四年 神社本庁規程表彰者

◎第三条第三号該当者

表 彰 状

貴下は敬神の念篤く多年の間神徳の発揚に意を注ぎ神社の経営を援け斯道のために多大の貢献をなされたことは氏子崇敬者の亀鑑といふべきであります

仍て表彰規程に基いて審査委員会
の審査を経て茲に表彰状を呈し
その功績を顕彰します

令和四年二月三日

神社本庁総裁 池田 厚子

杉山 茂之



宇都宮市鎮座 羽黒神社 役員

昭和二十二年三月二十七日生
平成三年四月一日 役員就任

羽黒山神社の責任役員として神社の維持運営、尊厳護持に尽力されると共に宇河支部神社総代会の会長、栃木県神社総代連合会の理事として県内神社の奉護に努め、特に神宮大麻・暦の頒布推進に尽力され斯界の発展と奉務神社の発展に努められております。

長竹 利夫



佐野市鎮座 沼鉾神社 役員

昭和十五年十一月十九日生
平成二十四年六月一日 役員就任

沼鉾神社の責任役員として地元氏神社の護持運営と御神徳の発揚に尽力されると共に地域の安佐地区総代協議会会長として活躍し、栃木県神社総代連合会理事として斯界の発展に尽力されております。又、社会的活動についても佐野市赤見大門町会会長、栃木県コミュニティ協会推進委員や外国人のための日本語講座講師、社会福祉法人「ブローニユの森」理事長として地域の文化発展にも寄与されております。

令和三年度 全国神社総代会表彰者
◎第二条第一号該当者

表 彰 状

あなたは敬神の念篤く多年神徳の
宣揚に意を注ぎ神社の経営を扶け斯
道のために多大の貢献なされました
このことは氏子崇敬者の亀鑑といふ
べきであります

よって表彰規程に基づき記念品を贈
呈してその功績を顕彰します

令和三年十月二日

全国神社総代会長 三村 明夫

長 竹 利 夫



佐野市鎮座 沼鉾神社 役員
昭和十五年十一月十九日生
平成二十四年六月一日 役員就任

沼鉾神社責任役員並びに安佐地区氏子総代会協議会会
長、同地区氏子総代会評議員として神社の護持運営に尽力
する。また、栃木県総代連合会の理事も務める。

地域においては、佐野市赤見大門会会長、栃木県コミュ
ニティ協会推進委員を務め、外国人のための日本語講座講
師、社会福祉法人「ブローニユの森」の理事長の職に就く。

榎 本 建 司



那須塩原市鎮座 金刀比羅神社 役員
昭和十三年十一月十七日生
平成二十年四月一日 役員就任

金刀比羅神社責任役員として、神事と地域自治会行事の
一体化を推進する。北那須支部総代会会長並びに監事を務
め、栃木県連合会理事としても尽力するとともに、他の役
員へ神社関係の会議や研修会等への積極的参加を促す。

地域においては、旧西那須野町（現那須塩原市）職員と
して町政発展に寄与した後退職。現在は、市の体育協会や
農業委員を務め、退職後も市への貢献を続けている。

令和三年度 神社本庁統理臨時表彰受彰者



黒磯神社（黒磯市）
五月女 照子
（宮司 月江 寛智）

社名標



多額の浄財寄進



大平山神社（栃木市）
山口 武夫
（宮司 小林 一成）

令和三年度 栃木県神社庁長臨時表彰受彰者

- | | |
|--------------------|------------|
| 宇 河 三祖神社総代監事 永見 輝雄 | （宮司 阿久津喜大） |
| 上都賀 今宮神社総代 手塚 清 | （宮司 山田 和之） |
| 上都賀 大内神社役員 和久井 仁 | （宮司 山田 和之） |
| 上都賀 喜久澤神社役員 金田 昇 | （宮司 田邊 一丸） |
| 上都賀 喜久澤神社役員 渡邊 淨 | （宮司 田邊 一丸） |
| 上都賀 近津神社役員 和賀井秀明 | （宮司 金子 信彦） |
| 下都賀 三嶋神社総代会長 小川 一男 | （宮司 小林 靖） |
| 下都賀 三嶋神社総代 毛塚 元一 | （宮司 小林 靖） |
| 下都賀 三嶋神社総代 石島 二之 | （宮司 小林 靖） |
| 下都賀 雄琴神社役員 栗原守一郎 | （宮司 黒川 正邦） |

金品奉納にて受彰された方々

神前燈籠一対奉納

金刀比羅神社（那須塩原市）

榎本 建司
（宮司 相馬 秀和）



多額の浄財寄進

貝島今宮神社（鹿沼市）

吉原 明
（宮司 山田 和之）



雨傘二十本奉納

今宮神社（鹿沼市）

根本 武矩
（宮司 山田 和之）



社殿屋根修理奉納

今宮神社（鹿沼市）

齋藤 範雄
（宮司 山田 和之）



多額の浄財寄進

十二神社（日光市）

齋藤 文男
（宮司 福田 喜光）



賽銭箱二基浄財寄進

十二神社（日光市）

齋藤 藤一
（宮司 福田 喜光）



賽錢箱一基淨財寄進

十二神社（日光市）

竹之内 浩美

（宮司 福田 喜光）



賽錢箱一基淨財寄進

十二神社（日光市）

原澤 征夫

（宮司 福田 喜光）



境内神社修繕・末社二社改築淨財寄進

十二神社（日光市）

滝 友二

（宮司 福田 喜光）



祭礼幟旗掲揚塔奉納

十二神社（日光市）

齋藤 志郎

（宮司 福田 喜光）



枯損木伐採作業淨財寄進

十二神社（日光市）

斎藤 完

（宮司 福田 喜光）



鳥居奉納

三嶋神社（下野市）

高山 利夫

（宮司 小林 靖）



大幟旗・旗竿一対奉納

天満宮（栃木市）
天満宮氏子一同
（宮司 栗原 千早）



屋外収納庫奉納

星宮神社（野木町）
須田 成治
（宮司 栗原 城治）



アルミ製灯籠壺基奉納

春日神社（栃木市）
鶴見 勇
（宮司 板垣 彰）



アルミ製灯籠壺基奉納

春日神社（栃木市）
新村 芳弘・節子
（宮司 板垣 彰）



アルミ製灯籠壺基奉納

春日神社（栃木市）
大豆生田 徳一
（宮司 板垣 彰）

アルミ製灯籠壺基奉納

春日神社（栃木市）
新村 博文・富土子
（宮司 板垣 彰）



アルミ製灯籠壺基奉納

春日神社（栃木市）
毛塚 勝市
（宮司 板垣 彰）



境内地二三一㎡奉納

日枝神社（栃木市）
片柳 マツノ
（宮司 板垣 彰）

石製春日燈籠奉納

上宮神社（小山市）
柏崎 定
（宮司 小島 教敬）



石製春日燈籠奉納

上宮神社（小山市）
曾篠建築工業
（宮司 小島 教敬）



石製春日燈籠奉納

上宮神社（小山市）
有長電気工事店
（宮司 小島 教敬）



石製春日燈籠奉納

上宮神社（小山市）
石川 喜明
（宮司 小島 教敬）



石製春日燈籠奉納

上宮神社（小山市）
伊沢 義一
（宮司 小島 教敬）



石製春日燈籠奉納

上宮神社（小山市）
小林 正明
（宮司 小島 教敬）



石製春日燈籠奉納

上宮神社（小山市）
小林 重治
（宮司 小島 教敬）



石製春日燈籠奉納

上宮神社（小山市）
小林 好男
（宮司 小島 教敬）



多額の浄財寄進

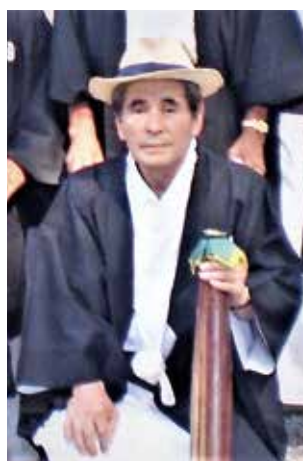
八幡宮（下野市）
永井 清
（宮司 小島 教敬）

多額の浄財寄進

八幡宮（下野市）

伊澤 剛

（宮司 小島 教敬）



多額の浄財寄進

八雲神社（芳賀町）

塙 喜夫

（宮司 柳田 耕太）



賽銭箱奉納

千代ヶ岡八幡宮（真岡市）

（株）佐藤工務店 代表 佐藤 常夫

（宮司 堀口 邦夫）



絵馬掛並びにおみくじ掛奉納

千代ヶ岡八幡宮（真岡市）

大福地建築 代表 大福地 定雄

（宮司 堀口 邦夫）



賽銭箱奉納

白鬚神社（高根沢町）

飯嶋建築 代表 飯嶋 清

（宮司 岩松 一雄）



御大典記念事業

支部名	宮司名	神社名	記念事業名
宇河	上野 喜則	白鷺神社	金明泉の新設
宇河	上野 喜則	白鷺神社	四神旗の新調
宇河	上野 喜則	白鷺神社	日月旗の新調
宇河	上野 喜則	白鷺神社	社名旗の新調
宇河	小島 教敬	薬師寺八幡宮	令和奉祝事業・太々神楽奉奏・稚児行列
宇河	小島 教敬	薬師寺八幡宮	令和奉祝事業・獅子舞奉納・稚児行列
宇河	萩野矢正美	愛宕神社	記念植樹
宇河	福田 孝二	北野神社	神輿殿新築
宇河	福田 孝二	白髭神社	拝殿床張替え・灯籠修繕
宇河	福田 孝二	須賀神社	記念植樹
宇河	福田 孝二	稲荷神社	本殿覆殿兼拝殿改修
宇河	増淵 孝	五料神社	奉祝旗の社頭掲示
宇河	増淵 孝	八坂神社	奉祝旗の社頭掲示
宇河	増淵 孝	二荒神社	奉祝旗の社頭掲示
宇河	増淵 孝	皇太神宮	奉祝旗の社頭掲示
宇河	増淵 孝	日枝神社	拝殿紋幕一張新調
宇河	増淵 孝	鹿島神社	神輿新調及び奉祝入魂祭
宇河	増淵 孝	貴船神社	神輿修繕
宇河	増淵 孝	八雲神社	拝殿・神楽殿 改修事業
宇河	増淵 孝	祖母井神社	拝殿調度品奉納

支部名	宮司名	神社名	記念事業名
芳賀	柳田 晋作	祖母井神社	御大典奉祝半纏新調
芳賀	柳田 晋作	祖母井神社	奉祝大祭齋行 神輿渡御・氏子四町全町会山車屋台の奉曳
芳賀	柳田 晋作	祖母井神社	鈴緒・本坪鈴奉納
芳賀	柳田 晋作	祖母井神社	記念植樹
芳賀	堀口 邦夫	千代ヶ岡八幡宮	神輿修繕
芳賀	堀口 邦夫	長沼八幡宮	本殿獅子狛犬修復事業
芳賀	野澤 功嗣	鷺宮神社	双体道祖神建立事業
芳賀	野澤 功嗣	安住神社	大幟旗新調
芳賀	小堀 真洋	八雲神社	令和御大典記念八雲神社覆殿改修工事
芳賀	小堀 真洋	高尾神社	参道石段手摺り設置事業
芳賀	小堀 真洋	鹿島神社	小深鹿島神社鳥居修復工事
芳賀	小堀 真洋	羽黒神社	羽黒神社鳥居新築奉納事業
芳賀	和氣 達郎	高原山神社	鳥居新築
塩谷	一條 勝彦	石上神社	階段手摺設置
塩谷	伊藤 史展	塩竈神社	記念植樹
南那須	滝口 貴史	愛宕神社	門帳壁代奉納
南那須	滝口 貴史	愛宕神社	社殿額改修
南那須	滝口 貴史	八幡宮（上）	植樹祭
南那須	滝口 貴史	八幡宮（湯前）	参道の改修
北那須	相馬 秀和	三島神社	奉祝植樹祭記念碑建設
北那須	相馬 秀和	三島神社	社務所「屋根塗装、畳の新調」の工事事業
北那須	相馬 秀和	愛宕神社	奉祝境内設備事業（お札納め所建設、フェンス修繕事業）

支部名	宮司名	神社名	記念事業名
北那須	渡邊 恒夫	温泉神社	記念植樹、天皇陛下御即位御大典祭
北那須	渡邊 恒夫	温泉神社	植樹記念事業、天皇陛下御即位御大典祭
北那須	渡邊 恒夫	愛宕神社	記念植樹、天皇陛下御即位御大典祭
北那須	渡邊 恒夫	温泉神社	祭典用大のぼり織新調奉納、桜苗木の植樹、石燈籠一対奉納
北那須	渡邊 恒夫	稲荷神社	植樹祭、天皇陛下御即位御大典祭
北那須	渡邊 恒夫	温泉神社	記念植樹
北那須	渡邊 恒夫	稲荷神社	天皇陛下御即位御大典祭
北那須	渡邊 恒夫	温泉神社	記念樹事業
北那須	月江 寛智	黒磯神社	車椅子用参道新設
上都賀	横瀬 勝壽	賀蘇山神社	御即位御大礼奉祝奉納 扁額御修繕事業
上都賀	横瀬 勝壽	口栗野神社	御大礼奉祝扁額奉納並びに 神具新調、記念植樹
上都賀	横瀬 勝壽	八坂神社	御大礼奉祝扁額奉納並びに 記念植樹
上都賀	横瀬 勝壽	妙見神社	大嘗祭歌碑建立事業
下都賀	栗原 城治	間々田八幡宮	揭示板設置
下都賀	栗原 城治	間々田八幡宮	境内砂利敷設
下都賀	栗原 城治	乙女八幡宮	令和館建設
下都賀	黒川 正邦	雄琴神社	文化財修理雄琴神社御鎮座 九百三拾年祭記念事業
下都賀	小林 靖	星宮神社	手水舎新築工事
下都賀	小林 靖	三嶋神社	八坂神社改修事業

支部名	宮司名	神社名	記念事業名
安佐	新村 貢一	星宮神社	拝殿幕一式寄贈
安佐	永澤 宏昭	朝日森天満宮	御神輿修理
安佐	早乙女晶子	赤城神社	神社護持費導入
安佐	早乙女晶子	赤城神社	榊植樹
安佐	安蘇谷幸治	一瓶塚稲荷神社	榊植樹
安佐	村樫 吉宣	浅間神社	手水舎改修

こちらに掲載しております「御大典記念事業」は、栃木県神社庁教化委員会調査研究部門において取りまとめた事業です。

尚、本事業は、令和三年度（令和四年三月三十一日）を以て調査を終了致しました。御協力をいただき、誠にありがとうございました。各御社頭の今後益々の御発展と弥栄を御祈念申し上げます。



神宮式年遷宮

前例に倣えば令和十五年に第六十三回神宮式年遷宮が斎行される予定であり、来年には遷宮を十年後に迎える年となりますので「式年遷宮とは何か」をご紹介します。

あらゆる神々の中で最高位にあり、皇室の祖先神であり日本国民の総氏神である天照大御神をお祀りする伊勢の神宮。「伊勢神宮」、「お伊勢さん」の通称でよく知られていますが、その正式名称は「神宮」であることから、ほかの神社とは一線を画する唯一無二の存在であることが窺えます。その神宮にとって比類のない営みであり、国を挙げての重儀とされるのが、二十年に一度行われる式年遷宮です。神宮の式年遷宮は、今から約一三〇〇年前、第四十代天武天皇のご発意により、次の第四十一代持統天皇の四年（六九〇）に第一回が行われました。その後、室町期に一時中断したものの、現在に至るまで堅持されています。式年遷宮を行う神社は他にもありますが、神宮ほど大規模なたちで古制を守り続けている例はありません。平成二十五年に行われた第六十二回式年遷宮では平成十六年一月十九日に天皇陛下から大宮司に遷宮斎行のご下命があり、四月五日に正式な御聴許（お許しいただくこと）、平成十七年五月の「山口祭」から諸祭儀・行事が開始されました。平成二十五年十月の遷御（神様が新しい神殿へお遷りになる祭儀）や御神樂まで、三十三の祭儀・行事が行われました。



御杣始祭 御杣山に於いて御樋代木を伐採する祭儀
みそまはじめさい みひしろぎ

神宮は、天照大御神をお祀りする「皇大神宮」（内宮）と豊受大御神をお祀りする「豊受大神宮」（外宮）の二つの大神宮（御正宮）に、十四の別宮と一〇九のゆかりの摂社・末社ほか所管社を合わせた全百二十五社の総称です。式年遷宮では、これらの諸殿舎のほか、橋や鳥居までも新しく造り替え、神様をお遷しし、ご神威のさらなる高まりを願います。皇大神宮と豊受大神宮の両正宮の遷宮に

続いて、別宮の遷宮が行われ、摂社以外の社殿は神宮の責任において造替・修繕が行われます。両正宮や別宮、一部の摂末社では、式年遷宮のたびに、東西に隣接した同じ広さの御敷地に交互にご社殿が建てられます。また、式年遷宮では神々の装束や調度品である御装束神宝も、付



御白石持行事 ほぼ完成した御正殿の御敷地に、旧神領民と全国の崇敬者がお白石を奉献する行事
おしろいしもち

属品を合わせて約八〇〇種・一六〇〇点が古式のとおりに新調されます。それら遷宮に関する総経費は、広く国民から募った奉賛金でまかなわれます。

二十年に一度という期間については平安時代に編纂された律令の施行細則「延喜式」で規定されていますが、なぜ二十年なのかについて明快な根拠を示す資料はありません。

ただ式年遷宮は大神嘗祭ともいうように、秋の大祭である神嘗祭と深い関わりがあると考えられます。神宮では、年間一五〇〇回以上ものお祭りが行われていますが恒例祭典のなかで最も重要とされるのが十月の神嘗祭で、それに次ぐ六月と十二月に行われる月次祭を合わせて三節祭と呼びます。また二月の祈年祭、十一月の新嘗祭も重要な祭祀です。

これらはすべて、日本人が古来営んできた稲作と関連するお祭りで、神嘗祭は、その年に収穫された新米を大御神に捧げ、それを召し上がられた大御神が新しい生命力を得られるお祭りです。式年遷宮はその極まりとして、天地のすべてを一新し、大御神と皇室、そして国家国民が永遠に若々しく澁刺^{はつらつ}とした生命力を保つよう祈念することにその本義があります。常緑樹の松も枯葉が落ち、新たな葉が芽吹くことの繰り返しでその緑を保つことができるように、神宮もまた、定められ伝えられたかたちを変えることがなくすべてを一新することで、瑞々しいままに創建の精神を保ち続けることができます。このように、常に新しく若々しくあることを「常若^{とこわか}」といいますが、式年遷宮の底流にはこの常若の思想があると考えられます。

神宮の社殿は、ほとんどの神社と同じく木造建築です。木は石に比べて耐久年数が短く、創建当時の美しさを保つには余りにも朽ちやすく、火災にも弱い建築資材です。永遠を目指したヨーロッパ



奉幣 古く「一社奉幣」と称され、遷御とともに、ひときわ重んじられてきたお祭りです
ほうへい 天皇陛下より奉られる幣帛を奉納する祭儀
へいはく

の石造りの古代神殿が、現在は信仰が廃絶し、観光地としては知られるものの廃墟と化していることを思うと、神宮が二十年ごとの遷宮により、常に新しい変わらぬ姿を見せていることは逆説的ですがあります。式年遷宮は、日本の美意識と神への崇敬心を表すにふさわしい、先人の知恵が生んだ日本ならではの営みといえるでしょう。また、社殿の造営や御装束神宝の制作などの技術を伝承するためにも、二十年というのは合理的な年数であると考えられます。すべてを新たにしたい清々しさのなかで、大御神のたいなる力が更に高まり、日本全体が若々しい命に輝くなか、自然への感謝を新たに、日本のこころと技を永遠に伝えていく祭儀です。

写真提供

神宮司庁広報室

参考文献

矢野憲一 伊勢神宮―知られざる社のうち 角川選書
 平成十八年十一月十日発行

神社本庁監修 日本文化興隆財団企画
 神社検定公式テキスト4 遷宮のつば 扶桑社
 平成二十五年二月二十日発行

お神札の祀り方



◆お神札のまつり方

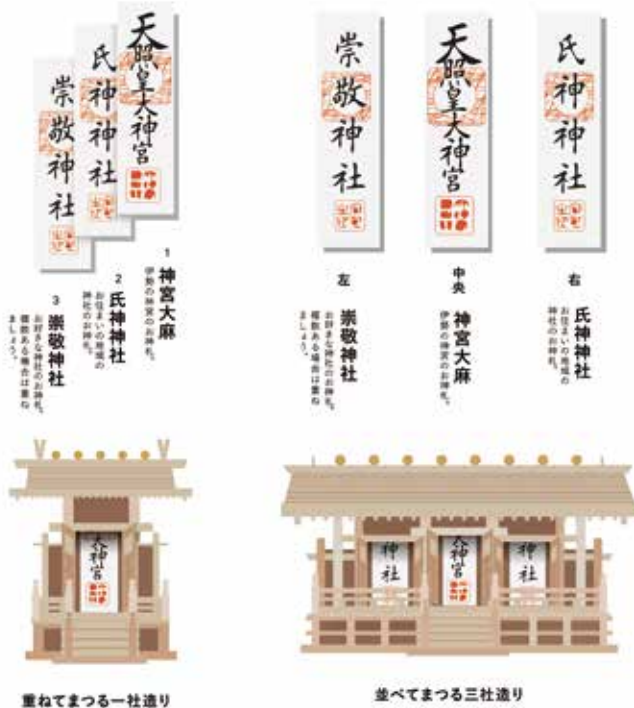
神棚には、神宮大麻（伊勢の神宮のお神札）を中心に、氏神社、崇敬神社の三つの神札をおまつりするのが基本です。三社造りの宮形には、中央に神宮大麻、向かって右に氏神社、左に崇敬神社の順にお神札を並べて、宮形の中に納めます。一社造りの宮形には、手前から神宮大麻、氏神社、崇敬神社の順にお神札を並べて、宮形の中に納めます。

●神棚を設置する場所

神棚は家中で家族が朝しめる明るく綺麗な部屋に設けましょう。設置する場所は、天井近く目線より高い位置で、お神札の正面が南向きまたは東向きにおまつりしましょう。住宅の中で、このような場所が見当たらない場合は、家族が親しみを込めて毎日お参りできる場所を第一に考えたいでしょう。神棚を設ける際は、神棚と設置場所をお話しするとより丁寧です。お近くの氏神社にお問合せください。



神札・神鏡は『BOOKS 家守の巻』の中に
取り扱っております。詳細はトップページを
一番下の「神札」をご確認ください。
<https://books.jeya.co.jp>



お神札 「おふだ」

お神札は神さまが宿っているみしるし

お神札の種類

◆神宮大麻

天照大神さまを御祭神とする「天照皇大神宮」の神号を護衛した伊勢の神宮のお神札です。
氏神さまを通じて神職等により各家庭に頒布されることもあり、各神社の境内所でも頒布されています。日本の「総氏神さま」である天照大神さまの御加護により、日本全国の家庭をお守りいただいております。



◆神社のお神札

お住まいの地域の守り神（氏神さま）である神社を「氏神社」、地域に限らず好きな神社や特に信仰する神社を「崇敬神社」といいます。崇敬神社はいくつあっても大丈夫です。



◆祈願札

神社で家内安全や厄払い、初宮詣、七五三など、神さまへお願い事をしたときに授けられるお神札です。



神棚の由来

古事記(上巻)では、神棚の由来について次のように記されています。
『伊弉諾大神、大く歡喜びて語りたまひし、吾は子を生まるみて、生みの終に三はしら貴き子を待つ』とのたまりて、即ち御祭神の玉の結ひ由良邊に取ひ由良邊を、天照大神に願ひて語りたまひし、(次は)、「次は、吾を知らせ」と事依さして語りける。故、其の御祭神の名を、御祭神之神(御祭神を調みてタナと云ふ)と調ふ。

かまどの神さま

三寶荒神のお神札
荒神は神とも呼ばれ、主に住所を中心とした家の中の火を扱う場所におまつりする神さまのお神札です。



◆解説

天照大神様が、お父様である伊弉諾大神から授けられた神聖な宝物(御祭神)を神さまとして祀り、板を設置しその上におまつりしたのが、神棚のはじまりと語られています。

◆神棚Q&A

Q お神札は、ずっとおまつりしていてもいいのですか？

A 年末の大掃除では神棚もきれいにし、新しいお神札をおまつりします。新しいお神札をおまつりすることによって、神さまの御加護をいただく、迎えた新しい年も無事に過ごせることをお祈りします。今までおまつりしていた古いお神札は、一年間お守りいただいた事に感謝して、神社にお礼参りをしてお返しします。



古神札はお焚き上げされます。

Q 身内に不幸がありました。神棚はそのままでもいいのでしょうか？

A 故人の御弔いに悼念するため、霊殿の神棚のおまつりはいったん止めて、神棚の前に半紙を貼ります。期間中は、地域によって異なりますが、一般的に五十日が過ぎたら忌明けとし、神棚のおまつりを再開します。



Q お神札の薄紙は、そのままでもいいのでしょうか？

A お神札を包み込んでいる薄紙は、家庭や会社におまつりされるまでに汚れ付かないようにするために貼られています。神棚にお神札立てに納める直前に薄紙を取っておまつりしましょう。



Q 神棚の上の「雲」は、何を意味しますか？

A 一階建ての家の一階に神棚を設けた場合、低い神さまをおまつりした神棚の上を、階上の人々がやむを得ず踏む場合があります。しかし、神さまに畏れ多いということから、「雲」や「天」と書いた紙を貼って、神棚より上は雲上であって、他には何もないことを意味します。



Q お神札とお守りの違いって何ですか？

A お神札は、家や会社の神棚におまつりし、一家や会社の安全をお願いお参りすることで、神さまにお守りいただきます。一方、お守りは個人が常に身に着けることで、交通安全や学業成就といった様々な種類の御加護を受けられます。また、お神札やお守りは「貰う」ものではなく、信仰の証として「受ける・授かる」ものです。



令和5年 厄年早見表 (年齢は数え年)



男性

前厄	本厄	後厄
24 歳 平成 12 年生	25 歳 平成 11 年生	26 歳 平成 10 年生
41 歳 昭和 58 年生	42 歳 昭和 57 年生	43 歳 昭和 56 年生
60 歳 昭和 39 年生	61 歳 昭和 38 年生	62 歳 昭和 37 年生

女性

前厄	本厄	後厄
18 歳 平成 18 年生	19 歳 平成 17 年生	20 歳 平成 16 年生
32 歳 平成 4 年生	33 歳 平成 3 年生	34 歳 平成 2 年生
36 歳 昭和 63 年生	37 歳 昭和 62 年生	38 歳 昭和 61 年生
60 歳 昭和 39 年生	61 歳 昭和 38 年生	62 歳 昭和 37 年生

令和5年 戌の日早見表

1 月	4 日(水)・16 日(月)・28 日(土)
2 月	9 日(木)・21 日(火)
3 月	5 日(日)・17 日(金)・29 日(水)
4 月	10 日(月)・22 日(土)
5 月	4 日(木)・16 日(火)・28 日(日)
6 月	9 日(金)・21 日(水)
7 月	3 日(月)・15 日(土)・27 日(木)
8 月	8 日(火)・20 日(日)
9 月	1 日(金)・13 日(水)・25 日(月)
10 月	7 日(土)・19 日(木)・31 日(火)
11 月	12 日(日)・24 日(金)
12 月	6 日(水)・18 日(月)・30 日(土)

戌(犬)は安産と言われていて、
妊娠五ヶ月の戌の日に腹帯をす
ると安産で丈夫な子が産まれる
と言われていたのよ。
お参りは、お近くの氏神様へ



栃木県の特産物紹介

〜第一回 とちぎのお米〜

神社・神職の視点から、地元栃木県の特産物にスポットを当ててご紹介するこちらのコーナー。第一回はとちぎのお米をご紹介します。古来より稲作が盛んであった日本において、お米は、神様のお供え物の中で最も重要とされてきました。現在の私たちの食卓にも欠かせないものであり、お米を含めた日本人の食生活の基本となる「和食」が、平成二十五年にユネスコ無形文化遺産に登録され、今年で登録十年目の節目の年を迎えます。食の多様性を極める現代において、健康的な食生活を支える「お米」と「和食」が注目を浴びています。

国内有数の米どころである本県では、日本穀物検定協会による食味ランキングで「特A（最高評価）」を獲得したブランド米が多く生産されています。ここでは、そのうちの四品種をご紹介します。県内の美味しいお米の数々、改めて味わってみては如何でしょうか。



神饌（神様にお供えするもの）



ハレノヒの食事

和食の特徴

多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重
健康的な食生活を支える栄養バランス
自然の美しさや季節の移ろいの表現
正月などの年中行事との密接な関わり

コシヒカリ 〜お米の王道・栃木県代表ブランド〜

粘りと弾力がある・ツヤがあり香り高い・品質が安定している

昭和三十三年に栽培が開始されて以来、順調に作付けが推移し、昭和四十一年には栃木県で一番作られる品種となり、その座を不動のものとなりました。



とちぎの星 〜米どころ栃木の期待の星〜

大粒で豊かな甘み・炊飯後も粒が崩れない・冷めてもおいしい

「様々な災害に打ち勝ち、燦然（さんぜん）と輝く『栃木の星』となって欲しい」との思いから命名されました。

平成二十六年の誕生直後から、老舗料亭や新進気鋭の飲食店から高く評価されると共に、令和元年十一月に行われた、天皇陛下の皇位継承に伴う重要祭祀「大嘗祭」で使用する新米に、「とちぎの星」が選ばれました。

